

三重塔跡

近江の主要な天台系伽藍配置では、三重塔を配するのが常であった。長寿寺の三重塔は本堂に向かって左後方の叢林中にあったが、天正三年頃織田信長の手によって安土城内の織田家菩提寺である惣見寺に移築された。地中より鉄刀子、鎮壇具に用いられたと思われる素焼きの壺が発掘された。壺の蓋には室町時代の作とみられる菊花双鶴文鏡が用いられ、鏡の製作年代から推定して享徳(一四五二〜一四五四)の頃、塔が建立されたものと考えられる。

市指定 石造多宝塔



聖武天皇の菩提を弔うために鎌倉時代に建立した多宝塔。現在は相輪が欠けているが、この種の石像多宝塔の遺例は極めて少なく、全国に10基程度が残るのみである。

重文 白山神社拜殿

平安時代以降、神仏習合が進み寺院境内に鎮守社が設けられるのが常であった。長寿寺にも創建時代は不明だが鎮守社として白山神社が建てられている。祭神は白山比咩。重

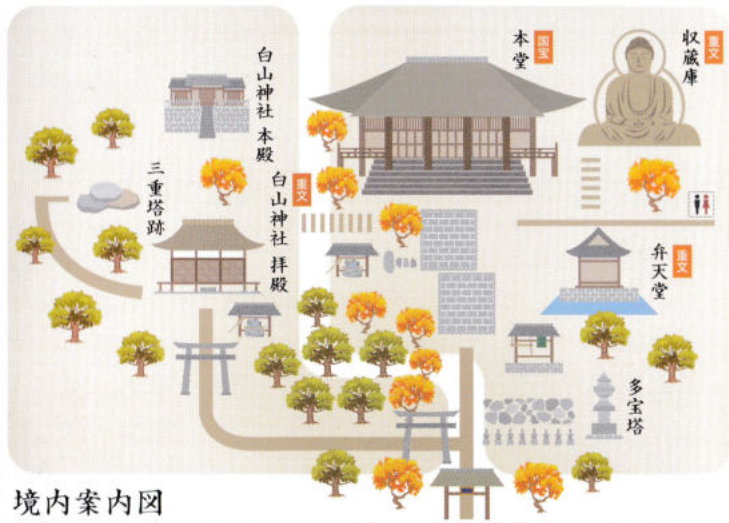


要文化財に指定されている拜殿の建築様式・手法は室町時代のもを伝えているが、弘安十年(1287年)の「左衛門尉平某寄進状」には社殿があったと推測される。四面に格子戸を備えるのは珍しい。



地蔵曼荼羅 (室町時代)

六臂(六本の腕)の地蔵菩薩の周囲に約一万二千体の地蔵菩薩を描いた日本で唯一の曼荼羅。作者・製作意図など不明。常設の「陶板」地蔵曼荼羅はこの曼荼羅を立体で再現し触れることができるようにしたもの。



境内案内図



長寿寺シンボルデザイン
「亀とコウノトリ」

0170

滋賀県在住の切り絵作家 早川鉄兵氏によるデザイン。子どもたちの健やかな成長を願う祈りを亀とコウノトリで表現している。

天台宗 湖南三山 阿星山 長寿寺

滋賀県湖南市東寺5-1-11 TEL 0748-77-3813



長寿寺公式HP



Instagram
chojuji_official

湖南三山・国宝〔本堂・春日厨子〕



国宝 長寿寺

子宝 安産 長寿



創建

聖武天皇の天平年中(七二九〜七四八)良弁僧正によって建立された勅願寺であり、現在国宝に指定されている。

その昔、聖武天皇が大仏造立のため紫香楽宮に遷都された折、世継ぎの誕生を良弁に祈請せしめたところ、良弁は阿星山中の瀑布に籠って折り、間もなく皇女の降誕をみるに至った。そこで天皇は、皇女の誕生にちなむ子安地藏尊を行基菩薩に刻ませて、紫香楽宮の鬼門に当たる東寺に七堂伽藍・廿四坊の寺を建立し本尊とした。そして皇女の

長寿を願い長寿寺という寺号を授けたと伝えられている。

その後、本堂は貞観年中(八五九〜八七七)に焼失、同年間に復元され現在に至る。中世には源頼朝、足利尊氏らの祈願所となったが、戦国期には織田信長の手により三重塔は安土城へ、楼門は栗東市の蓮台寺へ移築され主要な建物を失った。現在、国宝の本堂、重文の弁天堂、同じく重文の丈六阿弥陀如来座像、釈迦如来座像、阿弥陀如来座像、十六羅漢図などが残されている。

国宝 本堂

明治三十一年十二月二十八日指定
天平年中創建し貞観年中焼失。同貞観年中に復元され現在に至る。



桁行(正面)五間、梁間(側面)五

間、屋根一重寄棟造、向拝三間、椀皮葺、四面廻廊と、天台伽藍には珍しい建築である。中央三間は棧唐戸の入口、左右には連子窓、内部は正堂(内陣)と礼堂(外陣)とに分かれ、奥行き深い堂を構成し、化粧屋根裏や雄大な虹梁、その上の板葺股等、藤原時代の雰囲気を残し、建立年代が相当古いことを物語っている。

また正堂・礼堂がそれぞれ切妻型・寄棟型の船底天井となっているのは、正堂と礼堂を別棟とする双堂の形式を継承しているためであり、堂内に二つの建物が入り込んだようなこの構造は国内に数例しか現存しておらず大変貴重である。

重文 弁天堂

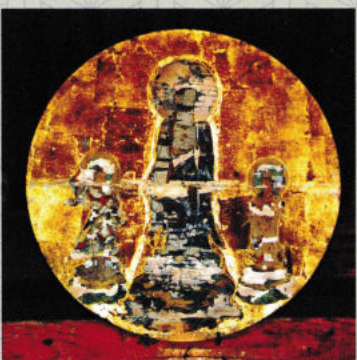
昭和二十七年三月二十九日指定
桁行一間、梁間一間、屋根一重入母屋造、唐破風付椀皮葺のほ



ぼ真四角な堂で、小さいながら本格的な構造である。建立年代は詳らかでないが、内部より刷毛書の墨書が発見され、それに十六、十二月と記されていた。(ただし肝心の年号の部分が塗りつぶされている)また地中から発見された瓦に「文明六年」という銘があること、「天文十九年三月手間參百人云々」という修理銘が見られること、さらに建築様式を踏まえると、文明十六年(一四八四年)の建立と見るべきだというのが建築史家の結論である。

国宝 春日厨子

明治三十一年十二月二十八日指定
内陣正面にある春日厨子は、厨子内中央に秘仏「本尊」子安地藏菩薩、脇土に「観世音菩薩」と毘沙門天を安置している。お開帳は五十年に一度である。厨子内の様子は懸佛としておまつりしている。



懸佛

重文 阿弥陀如来座像



明治四十一年四月二十三日指定
藤原時代、皆金色、一・四メートル、松の寄木造。二重敷茄子の蓮座に坐し、唐草文様を透かした二重円相光を負う。台座と光背は造立当時のものであり大変貴重。

重文 釈迦如来座像

明治四十一年四月二十三日指定
藤原時代、皆金色、一・八メートル、松の寄木造。仏師定朝の様式を踏襲した正統的な作。



重文 丈六阿弥陀如来座像



明治四十一年四月二十三日指定
藤原時代、皆金色、約三メートル、松の寄木造。仏師定朝の系列に属する者の作とされる。

半丈六地藏菩薩座像

鎌倉時代、皆金色、寄木造。



県指定制 聖観音菩薩立像



昭和六十三年三月二十九日指定
藤原時代、皆金色、寄木造。